

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2022年8・9・10月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第627号

障害者への合理的配慮 (reasonable accommodation) という言葉をご存じであろうか。2021年に改正・障害者差別解消法が成立したことにより、これまで努力義務だけであった民間事業者においても合理的配慮が法的義務とされ、多くの事業者が対応に追われている(実際に法律が効力を発する施行は数年後)。合理的配慮とは、2006年国連で採択された障害者権利条約を根拠とし、障害者を取り巻く障壁を取り除くために社会がすべき調整のことである。例えば、車いす利用者が、スロープが無く、階段しかない店を利用したとする。この場合、障壁を作っているのは事業者側であり、原因を取り除くのは障害者自身の「努力」ではなく、事業者側の「思いやり」でもなく、事業者側の「義務」ということになる。ではどの程度まで配慮しなければならぬのか。法的には「実施に伴う負担が過重でないとき」とされているが、それが「合理的」(英語原文では reasonable)であって、自分のなかだけでの合理性というニュアンスの rational)で

はない」という言葉で示されている点である。たとえばそれを実施することで事業者が経営破綻してしまつては「過重な負担」ということになる。ここでの合理的とは、障害当事者と社会(事業者)の双方にとつても理にかなうという意味合いである。つまり双方が「はなしあい」によつて合致されて納得された判断

合理的配慮とキリスト教



財団評議員

木原 活信

より徹底されるようになってきた。見えない障壁への配慮も特に注意がいる。たとえば、発達障害の学生からは「指示の仕方は個別に具体的に」、精神疾患のある学生からは「授業への参加方法の配慮」、「うつ病であるためレポート期日を遅らせて欲しい」、「不安障害があるので座席を後部

ということである。まさに本誌の目指す「はなしあい」の精神が求められているのである。

今回の改正により民間事業者にもその責任が及ぶことにより、同志社大学でも学生への具体的な個別支援に向けた部署も設けられ、その対策に奔走している。それ以前にも様々な支援を行ってきたが、

にして欲しい」など複数の個別の配慮要望があがつてくる。これを申し立てた当事者と担当教員が「はなしあい」によつて配慮すべき内容の合理性をさぐるのである。さてキリスト教はどうだろうか。「そんな話聞いたことがない。まったく知らなかった。教会は関係ない」とある教会の牧師や役員が話していた。このように「はなしあう」態度すらないならば、混乱は

避けられない。公私ごぞつて「はなしあい」をしている時に、キリスト教界だけが無知か、遅れをとつてしまうなら由々しきことである。

中風の人を、その4人の仲間が、屋根をはがしてイエスのもとに連れてきた話を思い出す(マルコ2章1〜12節)。「屋根をはがして穴をあけて」というのは常識はずれの大胆な行動であるが、それに対するイエスの言動は興味深い。逆に「群衆に阻まれて、イエスのもとに連れていくことができなかつた」というのも悲しい現実であるが、同席していた法律学者たちの冷ややかな眼差しに比して、イエスは中風の人へ愛をもつて接し、そして4人の仲間の中風の男への態度を高く評価された。今、多くの事業者は法的義務となつたゆえに、個別の配慮内容を必死で検討中であるが、キリスト教界は、義務感からというより、合理的配慮を先取りして徹底的に推し進め、そしてあの4人の仲間にあつて、並々ならぬキリスト教の愛の配慮を世に示していくべきではないだろうか。

(同志社大学社会学部教授)

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

2021年度事業報告(総括)

1. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター

①フォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続し、発展させた。

②アカデミー運動の理念に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組んだ。

(2) 関西セミナーハウス

①当財団の事業展開の拠点として、関西セミナーハウス活動センターの公益目的事業に施設を提供した。

②当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊施設及び会議場を諸宗教団体、労働組合、文化・社会活動団体、教育機関・学会・研究会等に供した。

(3) 広報活動

①関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター及び関西セミナーハウスの活動状況について、機関紙「はなしあい」、ウェブサイト

等によって継続的に情報を発信した。

②機関紙、ウェブサイト等により、年度事業計画、収支予算、事業報告、決算報告、その他当財団に関する情報を公開した。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出を行い、その収益の一部を公益活動に資した。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資した。

2. 事業運営推進

公益目的事業の推進に当たっては、継続的事业、新規プログラムを問わず、予算計画を持ち、必要財源を確保しつつ、安定的継続可能な運営を行った。

3. 賛助会員、寄附金

公益法人への寄付により受けられる税制優遇措置を活用し、アカデミー運動を支援する賛助会員および寄附者からの支援を仰いだ。

貸借対照表

2022年3月31日現在

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

| 科目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|------------|-------------|-------------|--------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | 19,940,486 | 42,330,701 | △ 22,390,215 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1)基本財産 | 12,000,000 | 12,000,000 | 0 |
| (2)特定資産 | 35,233,627 | 48,835,444 | △ 13,601,817 |
| (3)その他固定資産 | 279,973,908 | 295,221,907 | △ 15,247,999 |
| 固定資産合計 | 327,207,535 | 356,057,351 | △ 28,849,816 |
| 資産合計 | 347,148,021 | 398,388,052 | △ 51,240,031 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | 5,446,635 | 30,240,737 | △ 24,794,102 |
| 2. 固定負債 | 7,835,444 | 7,835,444 | 0 |
| 負債合計 | 13,282,079 | 38,076,181 | △ 24,794,102 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | 2,001,135 | 11,000,000 | △ 8,998,865 |
| 2. 一般正味財産 | 331,864,807 | 349,311,871 | △ 17,447,064 |
| 正味財産合計 | 333,865,942 | 360,311,871 | △ 26,445,929 |
| 負債及び正味財産合計 | 347,148,021 | 398,388,052 | △ 51,240,031 |

関西セミナーハウス活動センター

●2022年度 修学院フォーラム「いのち」第1回
「世界の農村指導者と「共に生きるために」
を目指して〜アジア学院50年の働き〜」

講師 学校法人アジア学院 校長 荒川 朋子さん
2022年4月23日(土)
関西セミナーハウスとオンライン



栃木県那須塩原市にあるアジア学院は間もなく創立50年を迎える。最初に学院の建学の目的、その働きがビデオで紹介された。学院の最大の特徴は自らの農場で有機農法によって自分たちの食べる食料をほぼ100%自給していることが説明された。途上国の農村指導者を養成する専門学校である学院が、これまで宗教を問わずに毎年数十人の参加者を迎え、61カ国、1368人の卒業生を輩出している。参加する研修生は25

〜45歳が中心で、帰国後は派遣された農村地域に戻り、農業に従事する。また、都市部で貧困層の支援に取り組んでいる卒業生も多いという。卒業生の様々な「共に生きる」実践が紹介された。「共に生きるために」は、学院が公正で平和な社会に寄与するためのモットーになっている。また、学院では9ヶ月間、研修生、教職員が共同生活をしながら支配型の指導者ではなく、人に仕える奉仕型の指導者(servant leader)を育てることを目指している。第2部の質疑応答セッションでは、コロナ禍以降、海外からの入学者が激減したこと、仕える指導者(サーバント・リーダーシップ)の意味、これからの学院のビジョン等について活発な議論が行われた。ア

シア学院というユニークな学校は農業の知識や技術を習得する場に留まらず、「共に生きる」ための、「知」を提供してくれる貴重な学校という印象を受けた。「私たちの生き方」が問われる学校といえるかもしれない。講師を交え、異なる課題や価値観に触れるそれを分かち合う学院の生活が「共に生きる」社会と世界に繋がっていくことを実感できた。「はなしあい」の時間となった。

●2022年度 修学院フォーラム「社会」第1回
「『ジェンダー正義』をめぐるエキユメニカル
な議論と実践」

講師 立教大学文学部キリスト教学科兼任講師、日本キリスト教協議会(WCC)書記 藤原 佐和子さん
2022年5月21日(土)
関西セミナーハウスとオンライン



現在、世界のエキユメニカル運動においても重要な課題となっている「ジェンダー正義」の課題について、豊富な文献や資料に基づき、パワーポイントによる講演がなされた。最初に、世界教会協議会(WCC)の歴史的な歩みについて説明がなされ、エキユ

メニカル運動とは何か、また現在、エキユメニカル運動が長い「冬」の季節を迎えていることの経緯について解説がなされた。続いて「ジェンダー正義」と「ジェンダー平等、公正などとの違いについて、わかりやすいイラスト画像やSDGsの目標項目と比較しながら説明がなされた。また、複数のフェミニスト神学者たちの「正義」、「公正」、「平等」に関する概念規定が紹介された。特にアジアにおける「ジェンダー正義」の取り組みへの言及の中で、韓国のフェミニスト神学者、Namsoun

Kang(ナムスン・カン) 女史の見解が紹介され、「ジェンダー正義」が「神の歴史の中で、虐げられた側に立って行動すること」と説明された。さらに、WCC及び世界の諸教会での取り組みに関連して、2022年2月にWCCが公表した「ジェンダー正義」に関する諸原則の内容が紹介された。「傷を訪ねる」(visiting the wounds)、「不正義を変革する」(transforming injustice)などが神学的、宣教的考察として興味深い内容として解説された。この文書の草案過程では加盟教会に配慮して「女性の按手」のための文書ではないことが確認されたという。第2部の「はなしあい」においては、身近な家庭や教会でのジェンダーに関連した用語や言葉の問題などを含め、質疑応答、意見交換が活発になされた。複雑で難解なテーマであるにも関わらず、パワーポイントや豊富な資料、実践的な事例の紹介から、よき学びと「はなしあい」の時となった。

関東活動センター記事は、次号掲載します。



●2022年度 修学院フォーラム「福祉」第1回 「外国人が医療を受けるまでの壁」

講師 特定非営利活動法人 CHARM 事務局長 青木 理恵子さん
2022年6月4日(土)
関西セミナーハウスおよびオンライン



日本の人口は、2009年から2020年までの12年間に190万人も減少している。この減少は、奈良県と鳥取県の全人口が失われたのに匹敵する。そのため日本は、労働力の不足を補うため、毎年60万人もの外国人を技能習生や留学生などとして受け入れてきた。しかし、彼らの多くの方は、キツイ、キタナイ、キケンな職場に派遣され、病気や怪我をしても、適切な医療を受けられない状態にある。その厳しい状況を、H2M陽性の人達や日本語以外の言葉で話す人達の支援をしている団体 CHARM の事務局長を

している青木理恵子さんが紹介された。

先ず外国人にとって、日本の医療のしくみの説明を、自分の理解できる言語で見つけることが難しい。どこへ行けば、どんな支援を受けられるのか分からない。H2Mの検査をどこで受けられるのかを、インターネットで英語で検索してもわからない。妊娠しても、どこへ行けば、どんな公的支援を受けられるのかわからない。公的健康保険制度があることを知らない人や、あるいは知っていても保険料が高いため加入していない人も多い。

日本国憲法は、日本に住むすべての人が保健医療福祉を受ける権利を有しているとし、国籍によらず、国民健康保険や国民年金、児童手当、生活保護などを受ける権利を保障している。しかし実際は、外国人を在留資格によって医

療や福祉から排除している。国民健康保険や生活保護の対象外としている。そのため健康保険に加入していない外国人に対し200〜300%もの医療費を請求する病院もある。在留資格を失った人たちや、迫害を逃れて来日した人たちへの、冷たい対応は、最近マスコミでも取り上げられている。

日本は、外国人を、重要なパートナーとしてではなく、単なる労働力としてだけ受け入れ、使い捨てようとしている。この発題に対し、会場および online で参加した20名の方が、なぜ日本は外国人に対しこのように排他的なのかと考え合った。

●2022年度 「開発教育セミナー」第1回 共催：(公財) 京都市国際交流協会 「開発教育入門セミナー」SDGs(持続可能な開発目標)を自分ごとにする」

講師 関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会
西上 壽一さん
友紀さん
2022年6月19日(日)
会場 京都市国際交流会館

毎年の初夏の恒例プログラムである開発教育入門セミナーを、(公財)京都市国際交流協会との共催で実施した。コロナ禍の影響で3年ぶりの入門セミナーは、参加者数こそ16名と多くはなかったが、ファシリテーターの問いかけに対して活発な意見交換がなされ、熱気あるセミナーとなった。改めて、対面話しあうことの豊かさを感じる

時間となった。午前「プラスチックごみから考えるSDGs」一歩ふみだせ！持続可能な社会へ、午後「服・ファッショントラジック」自分らしい、前向きなチャレンジとは」という2つのテーマでワークシヨップを行ったが、どちらも私たちの消費生活に関りがあり、環境への負荷が大きいという共通の課題がある。奈良公園

の鹿の体内から出てきた3kgのプラスチック(主にビニール袋)の写真に驚きの声を上げたり、衣料品の生産に人権問題が内在していることを確認したりしながら、個人の意識や努力が必要だけでなく、原料の調達や生産、流通などに関わる構造的な問題が大きく横たわっていることに、改めて気づく時間になった。参加者からは「何気なく着ている衣服に深い問題があることが分かった」「さらに疑問がいろいろ湧いてきた」などの感想があった。すぐに解決できない大きな問題であるが、共に考え、ため息をつきながらモヤモヤした思いを忘れずに、一歩ふみだすための力としたい。





●2022年度修学院フォーラム「社会」第2回
「日本はこれからどうなるのか？」

講師 神戸女学院大学名誉教授 内田 樹さん

2022年7月2日(土)
関西セミナーハウスとオンライン

講師の内田樹さんは最初に、現在のグローバル資本主義が終焉を迎えつつあると前置した。この終焉を予兆するかのように、様々な課題がグローバルな規模で深刻化している。とりわけ、近年の感染症パンデミック、気候変動、地政学的危機(ウクライナ)、人口減の4点について解説された。特に、日本の近未来に引きつけると、人口減が喫緊の課題であるとした。日本の人口動態の推計を紹介された。今後80年間、西暦2100年の人口予測は高位推計で6407万人、中位推計で4771万人、低位推

計で3770万人になるという。現在の日本の人口は1億2600万人なので、中位推計でも7000万人の減少が見込まれる。人口動態の統計は比較的誤差が少ないことが知られている。内田さんは、現在の日本政府内には、「少子化をどうするか」などの政策議論があっても、総合的に「人口減」の結果を検討する部局が存在しないこと、また、上記3点(パンデミック、気候変動、地政学的危機)などの世界的な課題を俯瞰的に考える人が日本政府にいないことを批判した。人口減に関連して、「人口爆発問題」(1960年代)が突然「人口減少問題」に変化した経緯、マルクスの「資本論」が人口増加を前提として書かれていたこと、人口の減少が「個人の意思」ではなく「集団の意思」に依拠していることなど、興味深い論点が指摘された。

第2部の質疑応答、「はなしあい」のセッションでは、人口減少を補完するための外国人労働者の受け入れ問題、他者に寛容な社会を創出する可能性など、活発な議論が展開された。また、様々な世界大の問題に対して「キリスト教は役に立つのか」という質問に対して、内田さんは「今後、相互扶助、分かち合いのネットワークが益々必要となる。キリスト教は時代を超えるミッションとして、これらの共同体の一つとして大切である」と指摘した。「日本はこれからどうなるのか」という主題に対して、政治、文化、哲学、宗教、文学など多岐にわたる視点から、縦横無尽に「内田節」が展開された。時間の長さを感じさせないフォーラムであった。

賛助会費・寄付金報告(1)

2022年4月1日～6月30日
(順不同・敬称略)

- ◆財団本部 賛助会費
 - 木村護郎クリストフ
 - 日本クリスチャン・アカデミー再興のための募金(寄付)
 - 徳丸 延子
 - 中村 信博
 - 野平 俊之
 - 武山 泰子
 - 橘 俊子
 - 奥田 豊
 - 竹中 百合子
 - 林 律
 - 中原 千香子
 - 匿名
 - 久保 二郎
 - 匿名
 - 延原 正海
 - 岩坂 二規
 - 八田 尚嘉
 - 中井 博雅
 - 岡本 泰子
 - 林 宗一郎
 - 神保 正男
 - 織田 雪江
 - 大澤 愛子
 - 手銭 秀夫
 - 諫早 道子
 - 匿名
 - 山崎 陽子
 - 真島 啓子
 - 竹下 亘

- 武藤 高司
- 多木 秀雄
- 荒井 功
- 船戸 正久
- 神崎 清一
- ウエダ ヤスヒロ
- 山田 晴信
- 小笠原 純
- 平林 喜博
- 片桐 ユズル
- 牛尾 宣夫
- 株式会社新経営サービス
- 奈良 睦子
- 船坂 孝江
- 匿名
- 中村泰洋園
- 森口 克洋
- 山根 厚信
- 石川 公子
- ワケンホールディングス株式会社
- 脇坂 照世
- 佐々木 紘児
- 辻 紀子
- 網野 俊賢
- 黒田 睦子
- 浅田 涼子
- 柴田 賢司
- 株式会社柴橋商会京都支店
- 株式会社アイイーエス
- 神田 健次
- ヤマモト オサム
- 横野 朝彦
- 日本基督教団伊丹教会
- 近見 富美子

- 松本 嘉一
- 匿名
- 小久保 正
- 株式会社ビーテック
- 奈倉 道隆
- 山中 信幸
- 和田 喜彦
- 岡崎 純
- 木下 壽子
- 長谷川 義紘
- 西川 淑子
- 全日本金属産業労働組合協議会
- 匿名
- ◆関東活動センター 賛助会費
 - 大橋 祐治
 - 河原田 美哉子
 - 星野 宗吾
 - 横野 朝彦
 - 門間 幸枝
 - 門田 豊
 - 全国教会婦人会連合
 - 島田 治夫
 - 只野 哲博
 - 古賀 博
 - 寄付
 - 天野 文子
 - 中村 信博
 - 中井 博雅
 - 高柳 允子
 - 匿名
 - 匿名 昌範
 - 門間 幸枝

次頁に続く

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2022年度 聖書を読む講座II**

(共催：早稲田奉仕園)

「マルコ福音書をジックリと読む」
第5期

講師：山口 里子さん (聖書学者)
日時：4月～2023年2月、第2火曜
18:30～20:00

参加費：全10回8,000円(学生4,000円)
方法：Zoomによるオンライン講座

■**2022年度 宗教対話I**

(共催：早稲田奉仕園)

〈連続講座〉アンコール開講

「日本キリスト教史を読む」II(大正篇)

講師：戒能 信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

日時：5月～12月(8月休)、
第2木曜14:00～16:00

参加費：全7回6,000円(学生3,000円)
方法：Zoomによるオンライン講座

■**2022年度 宗教対話II**

(共催：早稲田奉仕園)

連続講座「キリスト教文学に学ぶ」I

講師：柴崎聰さん (文芸評論家)
日時：4月～2023年3月 (8,12月休)

第3水曜

参加費：全10回8,000円(学生4,000円)
方法：Zoomによるオンライン講座

■**2022年度 宗教対話III**

(共催：早稲田奉仕園)

連続講座「超入門！西洋美術史
—キリスト教を中心として—」

講師：太田智子さん (山梨県立美術館学芸員)

日時：5月、7月、8月、10月、11月、
2023年1月、2月、最終月曜
13:00～15:00

参加費：全7回6,000円

方法：Zoomによるオンライン講座

◆**関西セミナーハウス活動センター**
修学院フォーラムは、会場(関西セミナーハウス)とオンライン(Zoom)併用開催

■**2022年度修学院フォーラム「いのち」**

第2回「人類と福祉—その淵源を探る」

講師：月本 昭男さん (古代オリエント博物館館長)

日時：9月26日(金)14:00～24日(土)
11:20

参加費：14,000円 学生 7,000円
(泊食込、宿泊税別途)

■**2022年度修学院フォーラム**

「沖縄から問う」(仮)

講師：榎本 空さん

日時：11月5日(土)13:30～15:50

■**2022年度開発教育セミナー**

第3回『『難民』から世界の今を考える
～一人ひとりの物語からはじめよう～』

講師：小俣 直彦さん (オックスフォード大学国際開発学部)
日時：9月3日(土)16:00～4日(日)
12:00

参加費：11,000円 (泊食込、宿泊税別途)

会場：関西セミナーハウス

第4回『『食えること』を世界の真ん中において、世界のあり方を根源から見直す』

講師：藤原 辰史さん (京都大学人文科学研究所)

日時：10月15日(土)10:00～16:00
会場：京都市国際交流会館

参加費：3,000円

第5回「ともに生きる社会のかたちをみつけよう！」

講師：藤井 邦洋さん (NPO法人 ともにいきる宝塚理事)

日時：11月12日(土)16:00～13日(日)12:00

東 西 南 北

- ・**監事** 棟方信彦退任、柳井一朗就任(任期1年、評議員は辞任)。
- ・**訃報** 浜本裕子さん(開発教育運営委員)7月18日逝去されました。これまでのお働きに感謝し、謹んで哀悼の意を表します。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告(2)

◆**関東活動センター寄付**

- 久世 礼子
- 増田 博
- 島田 治夫
- クリスマス寄付
- 門間 幸枝
- 神学生プログラム寄付
- 中井 博雅
- 松井 直樹
- 関田 寛雄
- 門間 幸枝

◆**関西セミナーハウス活動センター**
賛助会費

- 小笠原 純
- 浦 晴子
- 織田 雪江
- 林 律
- 山本 貴之
- 關岡 一成
- 鳴海 信子
- 横田 穂美
- 木下 壽子
- 森口 克洋
- 比嘉 美智子
- 浅田 凉子
- Christian M. Hermansen
- 宇野 稔
- 森 正幸
- 橘 俊子
- 中島 健二

- 中村 信博
- 松岡 蓉子
- 大野 三枝子
- 平林 喜博
- 浅川 具美
- 北風 照子
- 徳田 信
- 鳥井 清司・操
- 浦 晴子
- 竹中 百合子
- 間瀬 啓允
- 藤田 恭子
- 川北 かおり
- 田辺 信子
- 梅山 猛
- 西川 淑子
- 山本 俊正
- 喜多村 やよい
- 大谷 光真
- 李 善恵
- 医療法人わたなベクリニック
- 岩坂 二規・泰子
- 佐藤 友紀
- 春名 康範
- 小山 稔
- 松本 嘉一
- 松田 光代
- 長塩 滋子
- 匿名

寄付
鳴海 信子

- 木下 壽子
- 日本基督教団西が丘教会
Christian M. Hermansen
- 横野 朝彦
- 榎本 栄次
- 安 昌美
- 中島 健二
- 柳井 一朗
- 織田 雪江
- 中村 信博
- 平林 喜博
- 長谷川 義紘
- 山添 みどり
- 藤田 恭子
- 武山 泰子
- 根岸 宏邦
- 堤 龍春
- 小久保 正
- 西川 淑子
- 山本 俊正
- 喜多村 やよい
- 新庄 佑三
- 荒井 加代子
- 多田出 佳代子
- 林 律
- 延原 正海
- 松本 嘉一
- 匿名
- 伊藤 正子

以上感謝をもってご報告申し上げます。